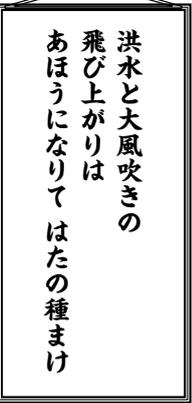




万人が
心に迷う米なれば
つれなき道へおもむくがよし

あの…
ぼくは
迷った揚げ句に
結論を出しても
すぐに人に
流されて
しまうんです



洪水と大風吹き
飛び上がりは
あほうになりてはたの種まけ

洪水や
台風
があると
米の不作を
連想して
しまい
がちです

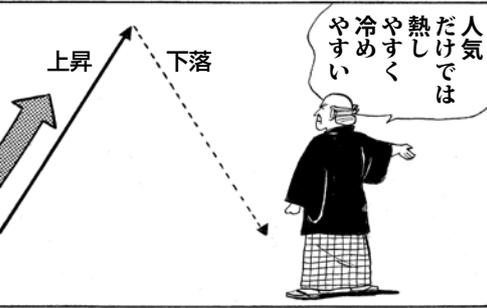


みんな
一緒に
間違えは
シヨクモ
やわらぎます

人間という
生き物は
他者と一緒
動けば安心だ
と思いがちです

迷いながら
一緒に動く
そんな
ことでは
だめですよ

分かっては
いるん
ですが
はい

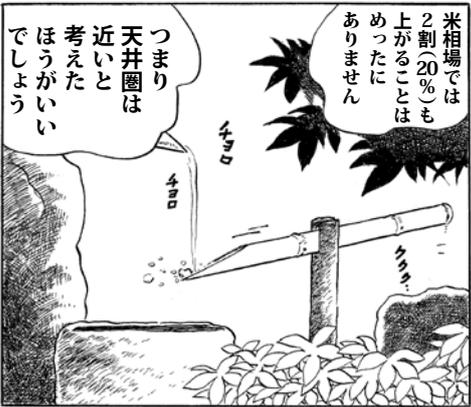


人気の
先走り…
なるほど

だが
買うと
相場は
窓を開けて
上昇する
天候相場
暴騰する
のは
人気の
先走り
が
影響して
いる
からだ
といえ
ます

だから
売りなん
ですね

人気
だけは
熱し
やすく
冷め
やすい
上昇
下落



米相場では
2割20%も
上がることは
めったに
ありません
つまり
天井園は
近いと
考えた
ほうがいい
でしょう

いつにても
二割上げては九分一分
千天元の売り匂と知れ



いえ
予想に
反する
ことが
あるので
様子を
見ることも
忘れては
いけません
様子？
どうやって
ですか？



それじゃ
目いっばい
売るのは
ですか？



試し玉に
通じ
ますね



「千天元」
つまり
試しに
小さく売って
探りを入れる
のです
そこで
利益が
出るよう
であれば
本格的に
売りに出る



分かりました！
先生のお話からすると
みんなが
不安に
駆られて
売りに出た
ときこそ
買い時を
探るのですね
そういう
ことです



万人が買いに
出ている
ときに
自分ひとり
買い戦列に
加わらないと
不安になるのは
仕方
ありません
しかし
その気持ち
断ち切る！
みんなが
強気で
買いなら



やっ
ぱり
売り
ですね



そう
です
自分だけは
その逆を
行くのです

本間宗久翁でいうなら
「この上は、陽に登り詰め
この上へ向程上がるも
知れぬようなるなり
これ燈火消えんとして
光増の心なり
ぜひと
明日利分と見定むるといへども
買はざる者なり
このところ
米も強く人気も揃い強く
強気の一人倍募るところなり
ここにて行付天井を見ること
肝要なり考うべし」だね



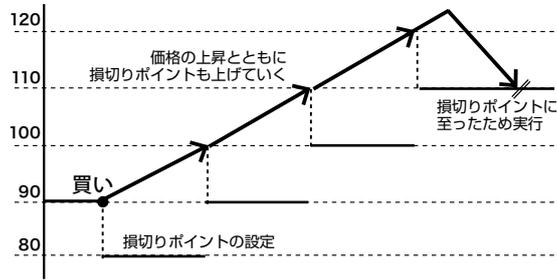
売り買いは
五分高下にてならずべし
乗せも同じく
五分高下なり



その後
5分(5%)ほど
下げたらさらに
買い増すのです
難平することで
買値の平均が
下がります



■トレイリングストップ



■損切り

本書でも再三、取り上げられている資金管理ですが、もちろん先物取引にとどまらず、証券や外国為替取引でも最重要事項です。

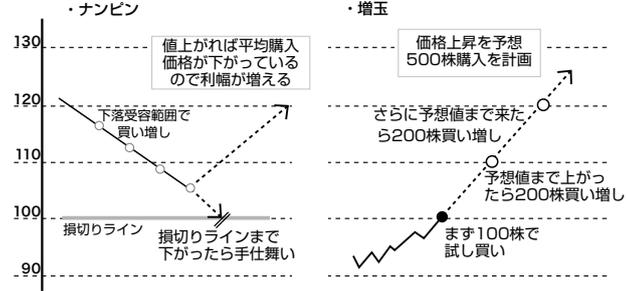
大切な資金の損失を拡大させないために、仕掛けるときに、あらかじめどこまでなら損失を許容できるかといった損切りラインを決めておくことが重要です。

ただし損切りラインを当初の建玉時の水準のままにしておく、上昇時に利益をそのまま減らすことにもなりかねません。

それを防ぐためには、上図のように価格の上昇とともに損切りラインも上げていく「トレイリングストップ」が有効です。

上昇しているからといって、欲を出して「まだ

■ナンピンと増玉



■ナンピンと増玉

本書ではたびたび、「ならず」「利乗せ」と言う言葉が出てきます。下落局面での「ナンピン」は、つまり安い価格で買い増して、平均購入価格を下げるというものです。また、上昇局面での「増玉」は、より高い建玉を増やすことで、収益機会をさらに大きく生かそうとします。

さて本書でも繰り返し述べられています、この手法の成功は計画性にあります。特に価格が下落しているときに行うナンピンは、そのまま値を下げ続け、保有している価値すらなくなるかもしれないからです。

目先の価格が下がったからといって、飛びつくのではなく、必ず計画を立ててから実行することが大事だといわれます。

まだ行ける」と過信せずに着実に利益を重ねるための有効な手段です。

第三章 相場に向かう心得